

2010年1月11日

## 国勢調査結果の具体的利用について

株式会社 野村総合研究所  
名取 雅彦

国勢調査は長期間かつ定期的なデータ利用が可能であることに加え、人口集中地区(DID)、昼間人口等、国勢調査でしかとれないデータがあり、ソフトインフラとして重要な役割を果たしている。

(例)

## ■人口集中地区(DID)に基づく都市化の分析

⇒「人口減少下における都市整備のあり方 集積形成とコンパクト化―」

『知的資産創造』(NRI、2009年8月号)

## 【要点】

- ・人口減少社会を迎えるなかで、地域の拠点としての都市の政策課題  
「集積の拠点(成長エンジン)」と「コンパクト化」
- ・経済を牽引する高次な産業や都市機能は、「規模の経済」「範囲の経済」「密度の経済」が働く都市に集中
- ・国勢調査による実質的な都市の範囲を示す人口集中地区(DID)から分析すると規模は頭打ち、密度も横ばい。地方ではDID人口、DID人口密度とも減少し、非都市化が進む地域も存在
- ・わが国の成長、競争力強化に資する都市整備を推進する必要  
①戦略的な拠点都市の形成、②「都市」「圏域」「ネットワーク」に着目した都市・地域の再編、③コンパクト化に向けた土地利用規制の見直し――を推進すべき

## ■昼間人口の分析

- ・都市圏分析/中心都市の産業構造分析

⇒国土交通省「都市・地域レポート2008」等

- ・職業構造分析

⇒ホワイトカラー人口、オフィス需要の推計 等

## ■人口構造に基づく各種の予測

- ・性別年齢別人口予測

⇒地方自治体における計画フレーム作成、宅地需要の推計 等

- ・余暇活動の分析(日本の将来人口推計の活用)

⇒「活性化に資する自由時間消費に向けて」『パブリックマネジメントレビュー』(NRI、2004年10月号)

国勢調査でしか利用できない情報があることを伝え、インフラとしての重要性をアピールすべきである。